平成 28 年 8 月 16 日
看護部　卒後臨床研修管理委員会

平成 28 年度　JCHO 千葉病院看護部　新人看護職員研修年間スケジュール（その 3）

（註：新人看護職員と部署スタッフ全員とが共通で使用する）

【重要】
作成の意図→新人看護師研修についての理解を深め、職員全員で新人を育てる風土づくりをする為に作成しました。

昨年度多くの病棟が、新人看護師教育が空白の期間でした。また、今年度は夜勤入りの時期が秋に変更となります。
従来の新人教育スケジュールとは、新人も先輩も共通して使用できるスケジュールを作成しました。ご活用ください。

【新人看護職員に対する年間教育目標】
１．上司の指導の下、関係部門と協働して、基本的な看護を安全に提供するための臨床実践能力を修得する。
２．指導を受けることにより、自己の学習課題を見つけることができる。
３．病院職員としての、規範・ルールを修得できる。
【新人看護職員研修の目的】　教育プログラムに基づいた研修を行うことにより、新人看護職員が安心で安全な看護ケアを提供するための臨床実践能力を修得する。
【研修実施上の留意事項】１．根気強く、温かく支援する。２．部署スタッフ全員が新人看護職員をサポートする。

新人看護師の 5 月～翌年 3 月の到達目標
１．社会人としての立ち居振る舞いができる
2. クリニカルラダーレベルⅠをクリアできる
3. 自立の目安は、6 月末→清潔ケア自立　9 月末→日勤ほぼ自立　12 月末→準夜勤自立　3 月末→深夜勤自立

月	新人が集合研修で学ぶ内容	新人看護職員が、時期別に到達を目指す目標	新人看護師が、部署業務を学ぶ際のポイント	先輩スタッフが、新人看護師を支援する際のポイント	評価表 B 「看護技術評価表」 評価提出締切日
10 月	4 週目：10/24（月）（13：30～　3.75 時間研修） **「人工呼吸器」**	□準夜勤務見習い（定員プラス１）を開始する □準夜勤のタイムスケジュールと業務内容がわかる □1 夜勤で重症度の低い患者を 4 名程度、支援を受けながら、担当できる（自己完結型） □10 月中に準夜勤を 2 回は経験する。 □12 月末までに夜間多数患者担当が自立できるための学習計画が立てられる □自発的に報告・連絡・相談ができる（特に夜勤にて） □生活リズムの変化に合わせた体調管理、生活調整ができる	□事前に準夜勤務の業務内容についてオリエンテーションを受ける □初回は担当患者を割り当てないので、タイムスケジュールや夜勤独自の業務の手順を学ぶとともに、巡視時の観察技術や注意点を学ぶ □2 回目以降は複数の担当患者について、支援を受けながら、自己完結型で業務を行う □12 月末までの自立に向け、学習計画を立てる	【夜勤業務について】 **＊「新人看護師夜勤状況報告」使用** □初回は担当患者を割り当てず、タイムスケジュールや夜勤独自の業務の手順の理解を深めさせる □2 回目以降は複数の担当患者を自己完結型で担当しながら、夜勤チームとしての業務完結に協力する意識を持たせるような支援をする。 □夜勤終了毎に**「新人看護師夜勤状況報告」**を使用して簡単なフィードバックを行う □新人が自立する迄、適時進捗確認を行うとともに、見守りながら、不足部分を補うようにする □担当者任せにせず、スタッフ全員で患者と新人の安全確保をしながら指導を行う □超過勤務の状況を把握し、超過勤務の原因となる事象について確認する □超過勤務が長時間継続して見られる場合、夜勤業務量の見直しと学習計画の見直しを行う □夜勤中に対応できなかった業務や看護技術について教育担当者や実地指導者と連携し、学習計画に反映させる □夜勤見習いは５回まで、６回目からは一人立ちを目指す。 【日勤業務について】 □12 月頃より先輩看護師と共に、重症者の担当ができるよう、学習計画や勤務分担を考慮する □報告・連絡・相談については、新人が実施しやすい雰囲気や環境を作り、患者の安全・安楽を守る □夜勤業務開始に伴う、生活リズムの乱れから、体調不良を誘発する可能性があることを理解しておく □課題等を課す場合には夜勤業務への適応中であることを考慮した内容や量や期限とする	「6 カ月後評価」 自己評価 9/30 他者評価 10/17
	2 週目：10/13（木）又は 10/14（金）のうち 1 日 **「千葉県看護協会研修　フレッシュセミナー秋」** （受講後報告書提出）	□期限内に報告書の提出ができる（A4 用紙 1 枚程度。復命書に準ずる内容とする）	□他施設に勤務する新人看護師と状況を共有し、自身の状況を客観的に考える		
11 月	4 週目：11/28（月）（13：30～　3.75 時間研修） **「退院調整・地域連携」** **「死後のケア」**	□1 準夜勤務で重症度の低い患者を 8～10 名程度、支援を受けながら、担当できる（自己完結型） □夜勤見習いは５回まで、６回目からは一人立ちを目指す。 □12 月末までに夜間多数患者受け持ちが自立できるための学習計画が立てられる（継続） □夜勤開始に伴う生活リズムの変化に合わせた体調管理ができる（継続）	□夜間担当患者が増えるため、よりタイムスケジュールを意識した行動がとれるような、工夫をする □スケジュールが大幅に遅れた場合、改善策を考える □自発的に報告・連絡・相談する（特に夜勤にて）		
12 月	4 週目：12/26(月)（13：30～　3.75 時間研修） **「急変対応③」**	□月末までに準夜勤一人立ちができる（但し、重症者担当は除く） □日勤にて、先輩看護師と共に重症者を担当できる □生活リズムの変化に合わせた体調管理、生活調整ができる（継続）	□夜間担当患者が増えるため、よりタイムスケジュールを意識した行動がとれるような、工夫をする（継続） □自発的に報告・連絡・相談する（継続） □重症者を担当する際に必要な手順や疾患や看護技術を学習する		レベルⅠ評価表 自己評価 1 回目 12/31
1 月	4 週目：1/23(月)（13：30～　3.75 時間研修） **「スキンテアの予防と管理「血液製剤の取り扱い」** **」**	□深夜勤務見習い（定員プラス 1）を開始する □深夜勤務のタイムスケジュールと業務内容がわかる □1 夜勤で重症度の低い患者を 4 名程度、支援を受けながら、担当できる（自己完結型） □3 月末迄に深夜勤務自立するための学習計画が立てられる □夜勤開始に伴う生活リズムの変化に合わせた体調管理ができる（継続） □看護技術とレベルⅠの未習得項目の学習計画が立てられる	□事前に深夜勤務の業務内容についてオリエンテーションを受ける □初回は担当患者を割り当てないので、タイムスケジュールや夜勤独自の業務の手順を学ぶとともに、巡視時の観察技術や注意点を学ぶ □2 回目以降は複数の担当患者について、支援を受けながら、自己完結型で業務を行う □3 月末までの自立に向け、学習計画を立てる □時期を決めて学習進度の進捗管理を行う		10 か月評価 自己評価 1／31
2 月	4 週目：2/27（月）（13：30～3.75 時間研修） **「看護場面の振り返り」**	□1 深夜勤務で重症度の低い患者を 8～10 名程度、支援を受けながら、担当できる（自己完結型） □未習得項目について意識的に学習に取り組み、習得できる		□研修終了に向けて、未習得項目の実施機会、学習機会を意識的に提供する □研修終了に向けて新人と担当者を応援する態度で接する	レベルⅠ評価表 自己評価 2 回目 2/28 他者評価 3/15
3 月	4 週目：3/27(月)（13：30～　3.75 時間研修） **「1 年間のまとめ」「修了式」**	□レベルⅠの 1 年後総合評価で、各領域（①実践②組織役割③自己研鑽の過程・統合化＋教育研究・指導）8 割以上の点数を獲得できている □看護技術評価表で 8 割以上が到達レベルに達している □月末までに深夜勤・準夜勤共に自立できる □研修修了証書を受け取れる	□担当患者が増えるため、よりタイムスケジュールを意識した行動がとれるような、工夫をする(継続) □スケジュールが大幅に遅れた場合、改善策を考える（継続） □自発的に報告・連絡・相談する(継続)		1 年後評価 自己評価 2/28 他者評価 3/15

註】
「看護技術評価表」には看護技術習得の到達時期と到達目標を示しています。詳細は別紙を参照ください。
◆時期は 4 種です
6 月末
9 月末
12 月末
3 月末
◆到達目標は 4 種です
Ⅰできる
Ⅱ指導の下でできる
Ⅲ演習でできる
Ⅳ知識としてわかる